

生活環境

村民の輪で住みよい住環境

住みよい暮らし快適な生活環境

安全で快適な住みよい暮らし、それは潤いのある生活環境と、そこに住む人と人との調和から生まれるものです。住みよい暮らしは、行政と村民が一体となった協力体制と、知恵を出し合い創造されるものでなければなりません。

本村では、これまで村全域に及ぶ上水道の整備と、生活道路・公園などの計画的な整備を進めてきました。

下水道は海や川を守り、快適な生活環境を創り出すうえで欠くことのできない根幹的な都市施設です。これまで楚辺地域及び村南部地域の公共下水道整備事業を進めていますが、今後も計画的に整備を進めていきます。

交通安全・防犯対策については、地域の皆様方のご協力を得て積極的に取り組んでいます。防犯灯や道路反射鏡などの施設整備とともに、事故防止に向けた一人ひとりの自覚と日頃の備えが重要です。

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災以降、防災対策には自助、共助、公助の精神がいかに重要かを学びました。そのうち、まずは自分の身が自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくする大きな力となります。「共助」の一つである自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と、地域共同体としての連帯感をもって、自主的に結成する組織です。現在、村内には長浜区自主防災会、渡具知区自主防災会、大添区自主防災会、都屋区自主防災会、楚辺区自主防災会の五つの自主防災組織があります。隣保協同の精神に基づいて結成された自主防災組織の活動は、災害時の被害を最小化する「減災」の重要な役割を担います。読谷村では、地域における自主防災組織への設立支援や、地域主導の防災訓練の強化を行うとともに、「公助」にあたる村全域での総合防災訓練等に取り組めます。



座喜味城跡公園



残波岬公園



沿道緑化



防災訓練より



読谷村景観計画

読谷村の良好な景観を守り、創り又は育てるため、平成二十二年三月に「読谷村景観計画」を策定しました。同年六月からは、「読谷村景観条例」も施行され、読谷村全域を対象とした景観行政がはじまりました。

本村の自然・歴史・文化が織りなす美しい景観は、読谷らしさや村民の心象風景を形づくるものとなっています。この美しい景観は村民共有の財産であり、誰もがその恵みを受けるとともに、後世へ引き継いでいかなければなりません。

この目的の実現を目指し、村民と事業者、行政が協働して魅力ある地域づくりと良好な景観づくりを推進していきます。



2009年4月より、公共交通機関の空白を解消するため、コミュニティバス「風バス」を運行しています。
料金：大人 200円
小人、65歳以上の高齢者、障がい者は 100円



比謝川行政事務組合(1994年設立)により嘉手納町と共同で整備されたごみ・粗大ごみ処理施設



比謝川行政事務組合ニライ消防本部読谷消防署